

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ガボン共和国月報(2023年2月)

2023年2月号

在ガボン日本国大使館

1. 内政・外交

- 13日、アリ・ボンゴ大統領が与野党間政治対話の大枠を発表した。同政治対話は防衛省前の広場にて、2023年2月13日から23日まで10日間にわたって開催される予定である。与党及び野党側は、それぞれが選出する30名の代表リストを提出する必要がある。同政治対話に招待されなかったとして不満を募らせている市民社会団体、宗教指導者、労働組合及びその他のアクターに対し、アリ・ボンゴ大統領はガボン政府がこうした不満をくみ取り、彼らがガボンにおける自由で信憑性及び透明性が高く、平和裡な選挙を実施する上での懸念を表明できる協議の場を設けることを約束した。(13日付GA)
- 23日、13日から開催されていた「平和裡に選挙を実施するため」の与野党の代表による政治対話が終了した。開会式同様、アリ・ボンゴ大統領は閉会式で演説を行い、政治関係者とガボン国民に対して与野党間対話の提案と提言が一つの例外もなく法律という形で反映されることを約束した。今後施行される「与野党の合意」を得た提言・提案の主なポイントは以下のとおりである。①あらゆる政治家(大統領、上院議員、下院議員、地方議員)の任期を5年間で統一すること、②再選規定を設けないこと、③あらゆる選挙を一回投票制にすること、④大統領選挙に立候補できる最少年齢の変更(18歳→30歳)、⑤上院議員に立候補できる最少年齢の変更(40歳→35歳)、⑥選挙供託金の変更(大統領選挙:2千万セーファーフラン→1千万セーファーフラン、議会選挙:35万セーファーフラン→25万セーファーフラン)、⑦選挙資金に関する現行の取り決めを維持すること、⑧与野党の双方に配慮した形で大統領が一部の上院議員を指名すること。また、与野党双方に共通の利益があるものの、掘り下げ必要がある検討事項については、今次与野党間対話の結果として設置される「フォローアップ委員会」で議論を継続することとなった。(24日付GR)
- 25日、反仏活動家のプリバンゴモ(Privat Ngomo)氏が当局に連行された後、同日解放された。同氏は「The NewPower」という愛国及び反フランサフリック団体の代表を務めており、2019年7月12日、ガボンにおける政治危機に対するフランス当局の責任を糾弾すべく、在ガボン・フランス大使館前の道路を封鎖して街頭演説を行った人物である。同氏は2月25日15時30分から、とあるホテルの前でマクロン大統領のガボン来訪に関する重要な政治的宣言を行うとSNS上で拡散していた。15時20分に同氏が現場に到着した際、治安当局(対内政干渉及び治安局、DGCISM)の職員6名に取り押さえられ、15時45分頃に同治安当局のオフィスに連行された。同氏はその後、司法警察員の尋問を受け、同日22時10分頃にリーブルビル市南部のオウエンド港で釈放された。同氏は司法警察員に強制連行の理由を尋ねたが、明確な回答はなかった。(27日付GR)

出典:GA(ガボンアクチュ)、GR(ガボンレビュー)

(了)